

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(桂川中学校)

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	学力向上を通して、豊かな人間性の育成	各教科での基礎基本の徹底と言語活動の更なる充実。読書指導の充実	・学力状況調査の結果 ・学習確認プログラム
	授業改善(楽しくわかる授業の工夫と実践)	研究部と教科会の連携による取組の充実。研究授業・公開授業週間。	・わかりやすい授業ができていますか。 ・研究授業の実施状況
	家庭学習の習慣化	教科指導の手引きでの学習のポイントの説明、学校・学年だよりによる啓発と取組	・平日は授業以外に平均何時間勉強しているか。 ・家庭学習用のプリントの提出はできているか。
	LD等支援を必要とする生徒への指導体制の充実	通級指導教員・支援員・教科担当との連携	・個別の指導計画で焦点化した生徒(支援を必要とする生徒)の学習に取り組む様子や変化
豊かな心	道徳教育の充実のよる「いじめのない」人権尊重の集団づくり	道徳教育や学級活動の充実	・桂川中学校は楽しい学校になっているか。 ・道徳の実施の状況
	生徒・保護者へのきめ細やかな対応	教育相談の充実 スクールカウンセラーとの連携 家庭訪問の実践	・相談できる教職員がいるか。
	「公共の精神」に基づく態度と協働作業、自治活動によるしなやか心の育成	・生徒会活動を通して自治活動の充実 ・学校行事の活用・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	・ルールや規則を守ること大切だと思うか。 ・学校行事の充実。
健やかな体	自他を大切にしている態度の育成	・基本的生活習慣の確立 ・生徒会活動と保健指導の連携による取組の充実	・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果 ・委員会活動の実施状況
	健やかな心身の成長	運動部活指導の充実 安全・健康教育の実践	・運動部活動への加入率 ・安全や健康に関する取組の実施状況 ・体力テストの結果
独自の項目	小中一貫教育の推進	小中合同授業研修会の実施と協議会の充実 授業・部活動体験の実施	・小中一貫連携会議や合同研修会の実施状況
	地域との結びつきを大切にした取組の充実	クリーンキャンペーン・ふれあい祭等地域行事へのボランティア参加	・地域行事への参加状況
	情報発信と充実	ホームページの積極的に活用した情報発信	・プリント、HPを含め学校情報やお知らせは家庭に行き届いているか。

自己評価		
・アンケート実施結果、 その他指標の結果に ついて整理	評価日 評価者・組織	平成28年9月8日 学校評価委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
<p>学力状況調査で、国66.8数61.6%が勉強が好きと昨年度より向上した。また、授業内容でも国81.1数81.2%が分るなと高い割合であった。学校7月アンケートの中でも授業の内容がよく分るが82.5%と同様に高かった。1日の読書時間においては、30分以上が22.6%と低かった。</p> <p>学力状況調査で、授業以外に2時間以上の生徒が39.9%と高い割合であり、教科書を使って学習と授業の復習の割合も高いことから家庭学習の習慣ができている生徒が多い。学校7月アンケートで、多岐な課題に取組84.4%宿題の提出83.7%と高い割合であった。</p> <p>学力状況調査で、学校に行くのが楽しいが93.2%友達に会うのは楽しい96.7%と高い。学校の規則を守っているが全国・府より15%・18%低く、学校7月アンケートでのきまりや約束を守って行動できる76.2%と高い割合であり、規範意識への課題が見える。相対できる教職員がいるが64.6%の割合が少ない。困っているときは進んで助けることや役に立つ人間になりたいと思うという項目についても全国・府より低い割合であった。</p> <p>学力状況調査で毎日同じ時刻に寝ている全国に比べ4.1%起きる時刻は8.4%下回り、校内アンケートでも28%が規則正しい生活ができていない、生活習慣に課題がある。</p> <p>運動部参加率は昨年度より3%増加。毎朝の健康観察が保健指導が取り組めた。避難訓練が計画的に取り組み、実際の地震発生時に対応ができた。</p> <p>定期的に通い会合をもち、10月に合同研修実施。 体験授業・部活動体験実施</p> <p>学力状況調査で、地域行事に参加している割合が全国に比べ0.5%上回ってボランティアへの参加も高くなっている。積極的に参加する生徒が多く、地域の方々と交流の機会となっていると考える。</p> <p>学校7月アンケートの保護者では70%が学校からの情報や家内が家庭に伝わっていると回答。教職員と保護者との連携をはかるように努めていると88.2%が回答。</p>	<p>アンケートの結果からも分かりやすい授業で勉強が好きな割合が高いことがあがるが、他のアンケート項目から計画を立てて学習に取組むこと、分からないところを教師や友達に聞く割合が少ないことから、生活習慣の中で目標と計画を立て、すめていくことや他者と意見交換の場面設定や方法を学ばせていく必要がある。読書習慣においては、携帯・スマホの使用時間を移行させていかなければ確保できないため、読書の魅力を教えていく機会を増やしていかなければならない。支援を要する生徒達が多様であり、個々の生徒への支援の共通理解が必要である。</p> <p>・年間指導計画を元に、道徳を計画的に取り組むことができ、校内夏季研修において道徳について研修を行った。・個々の生徒がもつ課題の共有が教育支援部会や研修会ですめている。・生徒会活動や学校行事の充実が生徒の自己有用感体得につながっている。3年生がよき手本となっている。</p> <p>生活点検や状況調査の活用が、学級指導や委員会指導に活かされている。運動部活動の充実と休養日の兼ね合いも含め、生活習慣を確立させる必要がある。</p> <p>・各顧問・担任が、部活動の意義や目的を共通理解し、計画的な取組を持って指導にあたる。小生生の部活動や授業体験は有効である。また、地域行事での交流も小中連携につながっている。地域行事への生徒の参加は良き伝統となっているが、休日の部活動との連携に課題がある。HPや学校だよりに、保護者も期待している様子がうかがえる。また、各担任や学年から出されるプリントなど、各家庭・保護者にとってさらにきめ細かな情報が発信されている。しかし、印刷にかかる経費については検討していかなければならない。</p>	<p>言語活動での発表や意見交流、オに興味を持てるように図書館を活用した授業展開などの研究授業を他校で研修することや、校内での伝達研修をすることによって教職員の授業改善につなげると共に、公開授業研修をもうける中で教職員間の相互研修を進める実践の充実のあたる。生活習慣の確立と家庭学習の充実に向けて、生徒自らがプログラミングできるよきキャリア教育の1つとして指導していく必要がある。支援を要する生徒のための教職員の見識を高めるための研修が必要であり、個々への指導の充実ができる体制を作っていくなければならない。</p> <p>・道徳資料の管理を、学年務員全てが共有して取り組めるようにしていく。・今後も、きめ細やかな指導をしていくため、アンケートや見守りの中で、気づいた点を家庭訪問等を通じて保護者との連携を更に密にしていく。・行事を生徒の自尊感情の高まりに結びつける。・学級での話し合う時間を内容や時間を豊富にしていく。</p> <p>学習面と健康面の両面を意識した生活習慣の確立を目指すプログラミングでできるようになり組んでいく必要があり調査後の結果を提示し改善を検討させて行かなければならない。部活動においてもプログラミングでできる活動の運動強度や時間など健康面に配慮した部活動運営を行い、競技力や体力向上だけでなく指導にあたる際は社会性の育成など人間形成を目指すものであることを認識する。</p> <p>小学校の教職員・保護者にも道徳について情報を知ってもらう。義務教育9年間を見据えた連携した教育がキャリアの検討をはかるため、夏季休業中に中・高合同研修会の計画や合同授業計画の計画・実施をすめて、共通認識を持った意識の向上を図る必要がある。HPだけでなく、学校だよりにや学級通信での情報発信をさらに充実させ、学校の様子や生徒の頑張りを伝えていくと共に、教師と保護者と相互理解を図るような家庭訪問や懇談会を実施に取り組む。</p>

学校関係者評価	
評価日	平成28年10月5日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・授業も学校行事も一生懸命に取り組む姿が伺え、ここ数年で学校全体が本当に落ち着いた。 ・学習支援を要する生徒に対しての配慮やその学習支援に対しての人的な配置などはないのか。 ・土曜学習・放課後の補習・長期休業中の補習には支援員等の活用はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習や各種学習会に地域ボランティアを活用しても良いのでは。地域に募る際は、学校運営協議会も協力できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の登下校であいさつをできる中学生が多くなって嬉しい。 ・学校の地道な取組の成果が、学校の落ち着きにつながっていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは小学校でも重点をおき指導をしているので、合同での取組も考えてみてはどうか。 ・今後も学校の応援団として、地域の声にも対応していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝食や睡眠時間は家庭の協力が必要である。小中で連携して取り組んでいかなければならない。 ・部活動については休養日は大切かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな機会や場面で親の関わりの大切さを訴えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・小中の先生方も仲が良くこれからますます連携が進むことを願う。 ・地域行事へはこれからも中学生に参加してもらいたい。 ・中学生の参加で成り立っている地域行事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が小学校を訪問して生徒会活動や部活動について説明する機会があっても良いのではないかと。(吹奏楽部と鼓笛隊の合同コンサートや大文字駅伝に向けての陸上部合同練習など) ・もっと保護者に足を運んでもらう工夫や広報が必要。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	学力向上を通して、豊かな人間性の育成	各教科での基礎基本の徹底と言語活動の更なる充実。読書指導の充実。図書館を活用した授業展開。	・学習確認プログラム ・学校評価アンケート12月の実施 ・学校評価アンケート7月実施分
	授業改善(楽しくわかる授業の工夫と実践)	研究部と教科会の連携による取組の充実。研究授業・公開授業週間。確認プログラムを基にした教科会の実施	・わかりやすい授業ができていますか。 ・研究授業の実施状況
	家庭学習の習慣化	教科指導の手引きでの学習のポイントの説明、学校・学年だよりによる啓発と取組、各教科での課題設定と確認	・平日は授業以外に平均何時間勉強しているか。 ・家庭学習用のプリントの提出はできていますか。
	LD等支援を必要とする生徒への指導体制の充実	道徳指導教員・支援員・教科担当との連携、個別の指導計画による連携	・個別の指導計画で焦点化した生徒(支援を必要とする生徒)の学習に取り組む様子や変化
豊かな心	道徳教育の充実のよる「いじめのない」人権尊重の集団づくり	道徳教育や学級活動の充実。内容の充実	・桂川中学校は楽しい学校になっているか。 ・道徳の実施の状況
	生徒・保護者へのきめ細やかな対応	教育相談の充実 スクールカウンセラーとの連携 家庭訪問の実践	・相談できる教職員がいるか。
	「公共の精神」に基づく態度と協働作業、自治活動によるしなやかな心の育成	・生徒会活動を通して自治活動の充実 ・学校行事の活用・保護者・地域との新春マラソン大会の実	・ルールや規則を守ること大切だと思うか。 ・学校行事の充実。
	自他を大切にする態度の育成	・基本的生活習慣の確立 ・生徒会活動と保健指導の連携による取組の充実	・生活状況調査や毎朝の健康観察の結果 ・委員会活動の実施状況
健やかな体	健やかな心身の成長	運動部活動指導の充実 安全・健康教育の実践 防煙・薬物防止教育の充実	・安全や健康に関する取組の実施状況 ・体力テストの結果
	小中一貫教育の推進	授業・部活動体験の実施 次年度に向けての協議会の実施と充実	・小中一貫連携会議や合同研修会の実施状況
独自の項目	地域との結びつきを大切にしたい取組の充実	・ふれあい祭や新春マラソン大会等地域行事へのボランティア参加	・地域行事への参加状況
	情報発信と充実	ホームページの積極的に活用した情報発信	・プリント、HPを含め学校情報やお知らせは家庭に行き届いているか。

3 総括・次年度の課題

・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に向けての取組による成果については、着実に実をむすんでいると評価いただいている。授業改善と同時に継続した家庭学習を定着させるための工夫が必要である。
・中学生が地域行事に積極的に参加し取り組むことで、生徒自身の達成感や自尊心の高まりにつながっている。今年度は、全教職員で「道徳」に取り組む体制が構築され始めた。
・教科指導と道徳教育を中心に、小中一貫教育に関する取組をさらに充実させる。
・保護者の授業参観機会を増やし、開かれた学校づくりと同時に「教科指導力向上」も意図して取り組みたい。
・授業改善に向けた更なる取り組みを検討していかなければならない。

学校名(桂川中学校)

・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月3日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
学習確認プログラムにおいて、3年生で、図書館を活用した授業が進められるようになり、本の貸し出し数も本年度増加した。このような授業改善を進めることにより、生徒の授業での学習の面白さを感じ、主体的に学習に取り組む姿勢が、個々に反映して、図書館の貸し出し数や通常の学習、テストでの正答率にも結びついてきたのではないかと考える。今年度は道徳の授業を通して授業改善に結びつくものがあれば進めてきたが、成果として上がらなかった。1・2年生では計画的に主体的に学習に向かう取り組みを検討していかなければならない。	3年生で、図書館を活用した授業が進められるようになり、本の貸し出し数も本年度増加した。このような授業改善を進めることにより、生徒の授業での学習の面白さを感じ、主体的に学習に取り組む姿勢が、個々に反映して、図書館の貸し出し数や通常の学習、テストでの正答率にも結びついてきたが、成果として上がらなかった。1・2年生では計画的に主体的に学習に向かう取り組みを検討していかなければならない。	言語活動での発表や意見交流、本に興味を持てるように図書館を活用した授業展開などの研究授業を他校で研修することや、校内での伝達研修をすることによって教職員の授業改善につげると共に、公開授業週間をもうける中で教職員間での相互研修を進め実践の充実のあたる。生活習慣の確立と家庭学習の充実に向けて、生徒自らがプランニングできるようキャリア教育の1つとして指導していく必要がある。支援を要する生徒に対しての教職員の見識を高めるための研修がまず必要であり、個々への指導の充実ができる体制を作っていかなければならない。
学校評価アンケートより、1年生では「家族の一員としての役割を果たしている」2・3年生では「規則正しい生活ができています」が前期と比較して向上した。「相談できる教職員がいる」も前期と比較して向上させることができた。地域との様々な行事へのボランティアとして参加生徒数も多くあった。	道徳の時間に向けての教職員の研修に伴い、道徳の時間だけでなく学校教育活動や地域・家庭での行動に行かせており、下校時の善意の行動のお返しの電話や地域行事でボランティア活動での地域の方々の高評価のお話をうかがい、個々の生徒が出くわす時間しっかりと行動が取れていることがうかがえ、自己有用感の体得が進んでいると思われる。さらに浸透させていけるように、取り組みを進める。	・道徳資料の管理を、学年教員全てが共有して取り組めるようになっているので、今後も、きめ細やかな指導をしていく。・アンケートや見守りの中で、気になった点を家庭訪問等を通して保護者との連携を更に密にしてい。・行事を生徒の自尊心感情の高まりに結びつける。・学級での話し合う時間を内容や時間を豊富にしてい
・生徒会活動を中心としたクラス別の生活点検や状況調査の実施 ・各顧問による1・2年生の新体制での部活動の意義や目的を共通理解し取り組む。 ・保健室利用人数	自治活動として取り組みを進めているが、すべての生徒へのフィードバックが不十分であり、課題把握してのステップアップにつながっていなかった。各部毎の取り組みになってしまい、共通で取り組ましていく内容についての徹底がはかれていなかった。保健室利用は昨年度と同様の数であった。	学習・健康の両面を意識した生活習慣の確立を目指すプランニングができるように取り組んでいく必要があり調査後の結果を生徒に提示し改善を検討させて行かなければならない。部活動においてもプランニングできるよう運動強度や時間など健康面にも配慮した部活動運営を行い、競技力や体力向上だけでなく指導にあたる際は社会性の育成など人間形成を目指すものであることを確認する。
定期的に会議をもち、10月に合同研修を道徳の授業について実施することができた。体験授業・部活体験による交流を実施できている。学校評価アンケートの保護者では85.4%が学校からの情報や案内が家庭に伝わっている。また、各担任や学年から出されるプリントなど、各家庭・保護者にとってさらにきめ細かな情報が発信されている。しかし、印刷にかかる経費については検討していかなければならない。	小学生の部活動や授業体験は有効である。また、地域行事での交流も小中連携につながっている。地域行事への生徒の参加は良き伝統となっているが、休日の部活動との連携に課題がある。HPや学校だよりは、保護者も期待している様子がうかがえる。また、各担任や学年から出されるプリントなど、各家庭・保護者にとってさらにきめ細かな情報が発信されている。しかし、印刷にかかる経費については検討していかなければならない。	小中学校の教職員・保護者にも進路についての情報を知ってもらい、義務教育9年間を見据えた連携した教育カリキュラムの検討をはかるため、小中合同研修会の計画や合同授業研修の計画・実施をすすめて、共通認識を持った意識の向上を図る必要がある。HPだけでなく、学校だよりや学級通信での情報発信をさらに充実させ、学校の様子や生徒の頑張りを伝えていくと共に、教師と保護者と相互理解を図れるような家庭訪問や学校参観日の充実に取り組む。

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月6日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・10月の学校祭も生徒の頑張る姿が感じられた。 ・土曜学習や放課後の長期休業中の補習は支援員等の活用はないのか。 ・学力に課題のある生徒や支援を要する生徒への対策。	・家庭学習に取り組める手立ての検討をしてはどうか。 ・土曜学習やテスト前学習会に地域ボランティアを活用しても良いのでは。地域に募る際は、学校運営協議会も協力できる。中学校のボランティアは敬遠される事がある。
・学校の地道な取組の成果が、学校の落ち着きにつながっていると感じる。	・あいさつは小学校でも地域でも重点をおき指導をしているので、中学校での取組も考えてみてはどうか。
・朝食や睡眠時間は家庭の責任が大きい。小学校同士・小学校と中学校で連携して取り組んでいかなければならない。 ・部活動は生徒たちの大きな楽しみ。	・地生連や少年補導の会合などを活用して、地域でも家庭の協力を訴えていく。
・地域行事へはこれからも中学生に参加してもらいたい。 ・中学生の参加で成り立っている地域行事である。	・学校祭は非常に多くの参観があるので、学校や子どもへの関心や期待は大きいと思う。